

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 22年 3月 10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775400266		
法人名	株式会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡東2丁目15-38		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp">tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成22年3月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アムール忠岡は南海本線忠岡町駅から徒歩5分のところにあり、公共施設やスーパーマーケット、診療所が徒歩圏内にあります。建物は鉄筋コンクリート造りで安心頂ける構造となっております。地域との交流には特に力をいれており、自治体や町、社会福祉協議会等の行事には積極的に参加している。また当ホームの行事に地域住民の招待なども行っている。施設にて犬の飼育をしており、ドッグセラピーを取り入れております。契約診療所、契約訪問看護、看護職員、介護職員のチームケアにより今までに2名の見取りをおこなってきた。ケアカンファレンスには家族の参加を積極的に促している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームアムール忠岡は南海本線忠岡駅から徒歩5分のところにある。忠岡町は町面積が狭く、生活に必要な町役場、スーパーマーケット、個人商店、病院などは事業所に近く、利用者の生活にその利点を上手に活用している。「愛のある我が家のような生活」との理念を実現するために管理者と職員間の意思統一を図っており、ターミナルケアや利用者にとって最も大切なことの一つである「食」への取り組みなどにみとれる。また、ユニフォームではなく私服での介護や小形犬の飼育は、利用者にとって精神の安定に役立っているようにみられる。さらに、先頃経営母体であるライフパートナーが同町内に別事業所を立ち上げ、その事業所とも機能の違いを使い分け協力体制を築くことができています。町内会、老人会、子ども会、保育所などの活発な活動にも積極的に参加しており、アムール忠岡は地域の住民にとって身近に感じられる存在になっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入職時の導入教育時に理念を説明している。またホーム内に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん利用者へも公開している。	理念を事業所内に掲示し、折りにふれ職員に理念に基づいた支援が実践できるように意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に加入している。 ・町内会主催の古紙回収に利用者と共に参加。 ・地域の催しに参加している。	町内会、保育所、子供会、老人会などの多様な活動に声がかかり、清掃、盆踊り、餅つきなどに参加している。事業所では子供たちと地蔵盆を行って喜ばれている。社会福祉協議会とも交流があり、地域との付き合いを活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通して、構成員に認知症、ホームの理解を促している。 ・ホームの事を知って頂ける様アムール主催の行事に地域の子供達、老人会、町内会を招待し参加して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用状況、利用者数、行事等、また問題点の報告を行っている。 ・利用者代表も出席し意見交換し地域との交流が出来ている。	2か月に1度開催し、利用者や家族も参加している。地域の催しの案内や誘い、事業所の活動の報告を行うなど、双方向のコミュニケーションをとることができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	・開設当初より継続して介護相談員の受入を行っている。 ・空床情報、入居相談、困難事例等報告、相談し助言して頂いている。	町担当者とは日頃から連絡を取り合っており、事業所の情報を伝え、相談をしたり、町から協力や支援を得るなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	・身体拘束マニュアルを常時確認出来る様にしている。 ・施錠、行動の制限を含めて身体拘束をしないケアを心掛けている。	身体拘束の弊害を管理者、職員とも理解しており、身体拘束の無いケアに努めているが、職員の目が届きにくい時や利用者に不穏な雰囲気が見受けられる時には玄関を施錠している。	利用者の安全を確保しつつ、見守りの位置、方法などに工夫し、施錠時間を短縮できるように、家族との意思の統一を図ることが望まれる。

7	<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加している。</li> <li>・スタッフ全員に資料を配布している。</li> <li>・スタッフのストレス軽減や悩み解消の為、スタッフの意見箱を設置している。</li> </ul>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加し、スタッフに資料を配布することにより周知している。</li> </ul>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規契約の時には十分な説明を行い理解して頂いている。</li> <li>・改定時にも十分な説明を行い、同意を頂いている。</li> </ul>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の介護相談員の受け入れを行っている。</li> <li>・利用者、家族の運営推進会議への参加を促している。</li> <li>・意見箱を設置している。</li> </ul>	<p>意見箱を設置しているが、投函されないことがないため管理者や職員は家族の来訪時には常に話しかけて、気楽に意見が言える雰囲気作りに配慮している。聴取した意見は内容によって担当者に対応したり、ミーティングなどで話し合いを行っている。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月リーダー会議、スタッフ会議を行っている。</li> <li>・年1回代表者との面談機会を設けている。</li> </ul>	<p>管理者は常に職員に話しかけ、どのような意見も表明できるように配慮している。朝礼や終礼時にも自由に意見を出せる雰囲気があり、職員の意見から休憩時間のとり方の改善が行われている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回賞与時に職員の評価を行っている。</li> <li>・適材適所を考慮し、事業所内及び社内配置転換を図っている。</li> </ul>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に社外研修への参加を促進している。</li> <li>・社内事業所間での相互研修を行っている。</li> <li>・必要に応じて個別に指導を行っている。</li> </ul>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の介護事業所連絡会に加入し、毎回出席している。また連絡会を通じて他の事業所の職員との交流も図っている。</li> </ul>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの開始前に本人、家族から今までの生活内容や嗜好品、趣味などの確認を徹底している。</li> <li>・主担当職員を設けて本人の要望への傾聴、支援に努めている。</li> </ul>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15に同じ</li> </ul>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15に同じ</li> </ul>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の要望への傾聴、支援に努めている。</li> <li>・他の利用者との関係づくりの支援を行っている。</li> <li>・ホーム内で本人の落ち着く場所の模索を行っている。</li> </ul>		

19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず家族の要望を聞き入れている。</li> <li>・ケアカンファレンスへ家族の参加を促している。</li> </ul>		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、友人の面会を進めている。</li> <li>・馴染みの店などへ積極的に行っている。（誕生日には馴染みの店で食事をして頂く等）</li> </ul>	利用料金の支払いを事業所の窓口で行うなど利用者と家族の関係が継続できるような配慮をしている。アセスメントや日々の会話から利用者の大切にしている人や場所を把握し、墓参りなどの外出支援などを行っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事時の座る位置等に考慮している。</li> <li>・必要に応じて可能であれば同意の元に部屋替え等を行っている。</li> </ul>		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設、医療機関へ移られた場合は十分なサマリー提供を行っている。</li> <li>・退去後も必要に応じて面会を継続している。</li> <li>・退去後も家族が相談し易い関係を築いている。（いずれも実績有）</li> </ul>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当制をもちいており、各々の生活歴や趣味活動などの把握に努め提供している。</li> </ul>	担当者は利用者との関わりの中で様々な思いや意向を把握することに努め、日常生活のなかで好みの食事ができたり、買い物などの外出への希望が叶えられるような支援に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用前の相談の段階から生活歴や社会資源などを把握する事に努めている。</li> </ul>		

25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々熱計表やカルテに記入し心身の状態や健康状態の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファレンスを管理者、計画作成担当者、担当者その他関係者とで開催している。 ・申し送りノート、家族への伝言ノートを活用し意見交換やケアの統一を図るよう工夫している。	カンファレンスに家族にも参加していただくように呼びかけており、参加もみられるようになってきている。利用者との日頃の関わりの中で希望を聞き取ることにより、より質の高い生活を過ごしていただくための介護計画を作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録をカルテに残し、又些細な情報は申し送りノートに記載し情報の共有に努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族、本人と相談しその時々に応じた可能な限りの対応と一緒に検討している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・最寄の派出所には訪問済みでホームの存在を知ってもらっている。 ・自治会の協力を得て文化祭、町民運動会へ参加している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医は利用者の希望に沿っている。 ・協力医療機関へは必要な方は定期的に受診を行っている。 ・必要な方は往診を依頼している。	利用者が希望するかかりつけ医での受診は、原則的には事業所が通院支援を行っている。家族などと受診時の通院支援や情報伝達の方法について話し合い、合意がなされている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設時より看護師を配置しており常に相談出来る体制を作っている。</li> <li>・契約の訪問看護ステーションの看護師と密に連携を図り健康管理に努めている。</li> </ul>		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関のSWや医師と密に連携を図り、環境の変化が最小限で抑えられるように努めている。</li> <li>・入院時必要な情報を提供している。</li> <li>・退院後の方向性について医師、機能訓練員等との面談を実施している。</li> </ul>		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医、家族とのカンファレンスを実施し対応方法、方向性を決めている。必要に応じて随時カンファレンスを実施し、対応方法を検討している。</li> <li>・看取りのマニュアルを作成している。</li> </ul>	家族等とは日頃から急変時の対応方針について話し合い、方針の統一を図っている。これまで実施したターミナルケアについて、家族等と職員、医療機関との話し合いの経過記録と看取りのマニュアルなどを個別に保管している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時対応マニュアルを作成している。</li> </ul>		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時フローチャートを作成している。</li> </ul>	災害対策マニュアルを作成し、年1回定期的に消防訓練を実施している（今年度からは年2回実施予定）。地域と連携をとり利用者の避難への対応や住民の避難場所として事業所を活用できるようにしている。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉掛けの仕方は全職員で注意を払っている。又問題がある場合はリーダー及び管理者が随時注意を促している。</li> <li>・個人情報の取り扱い方法は全職員に周知させている。</li> </ul>	利用者の記録類は第三者の目に触れない場所に保管して、その取り扱いに留意している。オムツ交換やトイレ誘導などの際には特に利用者のプライドを傷つけないよう日頃から職員の言動には注意を喚起している。	
----	---	---	--	--

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の利用者の希望を聞き出すよう職員教育に努めている。日常生活はもちろん、外出や外食等においても希望を引き出すよう働きかけている。</li> </ul>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事時間や、入浴時間等極力要望に沿ったサービス提供を図っている。</li> </ul>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に訪問美容や美容師のボランティアの受入をしている。</li> <li>・外出時は化粧をしたり、着飾ったりしている。</li> </ul>		
40	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事やおやつ作りは可能な限り共同で調理出来るようにしている。</li> <li>・ホームオリジナルの写真付きメニューや料理の本を常時配置しており、本人の要望を引き出せる工夫をしている。</li> </ul>	<p>食事には敷地内の菜園で採れた野菜や利用者の希望を取り入れた献立を作成し、利用者の出来る力を活かして買い物や盛り付け・配膳、下膳などに参加していただいている。誕生日などには希望のお店へ外食に出かけている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱計表にて管理を行っている。</li> <li>・栄養管理は栄養士がメニューを作成し1日約1500～1600Kcalの摂取量としている。</li> <li>・1日の水分量をチェックしている。</li> <li>・月1回、利用者に合わせて体重測定を行っている。</li> </ul>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義歯は義歯洗浄剤にて洗浄している。</li> <li>・毎食後うがい又は必要な方には歯磨きを促している。</li> <li>・希望される方は提携歯科にて口腔ケアを実施している。</li> </ul>		





50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な方は家族の同意の元、ご自身でお金を管理されている。</li> <li>・ホームにて金銭管理の方も出来るだけ本人の意思に沿った使い方が出来る様支援している。</li> </ul>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年賀状等季節の挨拶を出している。</li> <li>・希望に応じて電話して頂いている。又介助が必要な時はお手伝いさせて頂いている。</li> </ul>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関先に季節感のある花や野菜を植えている。</li> <li>・いつでも花や野菜を観賞出来る様玄関先にベンチを設置している。</li> </ul>	<p>玄関前にはベンチや利用者の植えた花々のプランターが並べられ、親しみやすい雰囲気を出している。玄関内には飼育している犬のコーナーがある。リビングのソファは利用者の座りやすい高さに職員の手で調節がされ通風、彩光も良い。居間及び台所には生活感が感じられる。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム内にはリビングともう一箇所くつろげる場所を設けている。又玄関先には椅子を配置しており、思い思いの場所で過ごして頂ける様している。</li> </ul>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛用品の持ち込みを進めている。（ダンス、テーブル等）</li> <li>・他必要な物品がある場合は一緒に買い物に行き購入している。</li> </ul>	<p>自宅での暮らし方を確認して、できるだけ馴染みの家具や小物を事業所でも使っていただくようすすめている。利用者は筆筒や小物など馴染みの物を持ち込み、希望者には居室に畳を敷いたりして居心地良く過ごしていただく工夫をしている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーは勿論、手摺の装備、車椅子、歩行器、手押し車を利用しての移動に十分な空間を確保している。</li> <li>・出来る事を見つけ些細な事からでも取り組み、日々自信が持てるような事を個々の利用者に取り組んで頂いている。</li> </ul>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	①	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない